

25日午前11時にメビウス∞えきまえ広場で行われる「5月25日みんなで輪をつくろう」を主催するのが狛江市平和祈念事業実行委員会。委員長 穴戸泉さん(61)に平和祈念事業や平和に寄せる思いを聞いた。

「『5月25日みんなで輪をつくろう』を実施する日は、74年前狛江に空襲があった日です。当時、狛江駅北口の場所にあった狛江国民学校(現・狛江第一小学校)に焼夷弾が落ちて校舎が焼けるなど大きな被害がありました。そうした身近な戦争の記憶を、近くの人と手をつなぐという具体的な行動でいつまでも記憶にとどめておきたいというのが事業のねらいです」 「5回目の今回は、えきまえ広場で初めて、すいとん(50円)を食べながら紙芝居を見る催しや校舎が焼けた当時のことを語る人が挨拶する予定で、ぜひたくさんの方に参加してほしいです」 「狛江市平和祈念事業実行委員会は平成27年の終戦70周年を機に平和の大切さを多くの市民に再認識してもらうために発足しました。行政提案型市民協働事業として狛江市が『終戦70周年平和祈念事業』を提示し、これに応

戦争の記憶を手をつなぐ行動で記憶にとどめておきたい

じた市民が実行委員会を結成して、市と実行委員会の協働事業として取り組みました。委員から出されたさまざまなアイデアを検討した結果、『5月25日みんなで輪をつくろう』、終戦70周年平和祈念事業『今、大切にしたいこと』など4つの事業が決まりました。私が実行委員長を務めることになり、各委員が担当する事業を



狛江市平和祈念事業実行委員会 委員長 泉さん

決めて取り組み、私は全体の連絡や調整にあたりました。短期間で大きな事業を実施することになり大変でしたが、多くの人に支えられて無事実施できました」 「その後、1回限りのイベントではな

く次の世代に平和の大切さを引き継ぐと実行委員会を残し、毎年、『輪をつくろう』と講演会などを催しています。『輪をつくろう』は、市内の小・中学校や保育園、幼稚園にも呼びかけで実施しています。今年度は平和の大切さを次世代に伝えるリーフレットを作成し5・6年生の児童と中学生に配る予定です。また、これまで同様、『輪』の写真を6月14日(土)まで一般募集しています。狛江市政策室協働調整担当で受け付けるほか、メール(Mminna_no_wa_komae@yahoo.co.jp)でも応募できるのでお待ちしています」

穴戸泉さんの横顔=横須賀市生まれ。短大卒業後に繊維会社に勤めた。30歳で結婚し、21年前に狛江市へ転居。子どもの小・中学校でPTA役員を務めた。その後保育園で働いたのち、狛江市人権擁護委員、狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員などのほか、狛江第一小学校kokoa運営委員会の役員を務めている。夫と息子の3人暮らし。趣味は映画鑑賞。

老舗めぐり

◆76◆

家庭的な雰囲気と昔ながらの味守るそば屋

狛江団地(都営狛江アパート)近くの狛江通りに面した増田屋(中和泉5-14-13)は、半世紀にわたり地域の人に親しまれているそば屋。

創業者の桜井博さん(昭和14年~平成29年)は新潟県北魚沼郡川口町(現・長岡市)の農家の出身で昭和29年に文京区本郷のそば屋に住み込みで就職、そばの打ち方から接客、経営までを学んだ。店の親方も新潟県出身で、全国にある増田屋の「のれん会」の中心的な存在だった。のれん会は修行を終えて親方や先輩の店から独立する時に店名を継ぐが、経営や味などは独立しているという独特のシステムだ。

桜井さんは先輩が営む吉祥寺の店で働いていた時、桜井さんの郷里に近い堀之内町(現・魚沼市)出身で神楽坂の店で働くノブさん(75歳)と見合い。



改築前の店舗(平成20年頃)

その後、桜井さんは本郷の親方の紹介で現在の場所を見つけ、43年に結婚と同

時に独立した。他の店で働いていた3人の店員とともにスタートしたが、狛江団地の第二次入居が始まった頃で、日曜日は越してきたばかりの人が来店、目の回るような忙しさだった。近くにそば屋が2店あったが、団地のリピーターも多く、出前を始めたことも相まって経営は短期間で軌道に乗った。その翌年、現店長の高橋久さん(49)の妻となる長女の裕美さん(49)が誕生、47年には次女も生まれた。ノブさんは店で子どもを育てながら働いたが、忙しい時は近所の人や客が子どもの世話をしてくれた。

56年頃には店が手狭になり、建て替えた。博さんは団地に住む同郷の人などと郷里の川口町と住民交流を始め、現在の長岡市川口地域とのふるさと友好都市交流のきっかけを作った。

裕美さんは短期大学を卒業後、会社に勤めた。狛江育ちで工作機械の会社に勤めていた久さんと知り合い、平成5年に結婚して調布市へ転居、子どもが生まれ専業主婦になった。店では、家業を継ぐ予定だった妹とパート店員

が働いていたが、妹が結婚して家を出たため、裕美さんが両親を助けて店を手伝うようになった。数年後には夫の久さんが父の博さんから店を継いでほしいと頼まれた。久さんは半年ほど悩んだが「妻の両親が苦勞して続けてきた店をつぶしたくない。脱サラして子どもと過ごす時間を作ろう」と決意、11年に退職して店に勤め、13年には店の近くへ転居した。その後、久さんが店の中心になり、裕美さんも3人の子を育てながら接客を担当した。21年の狛江通りの拡張に伴う店舗改築の時、そばの味にこだわり「挽きたて、打ち立て、ゆでたて」をモットーにすることにし、粉を挽く石臼を導入した。

ノブさんと久さんは「多くの人に支えられ、家庭的な雰囲気と昔からの味を受け継いできたのが長く続いている秘けつです」と話している。

増田屋 ☎3480-1410 営業時間 = 午前11時~午後4時/5時~8時30分 木曜休み



(右から) 桜井ノブさん、高橋久さん、裕美さん

こまっこ児童館がオープン

クライミングウォールなど充実した設備

市内3番目の狛江市立北部児童館(愛称・こまっこ児童館)が和泉本町3-31-19にオープンした。

約851平方メートルの敷地にある鉄骨造り2階建て、延べ床面積約846平方メートルの建物は、1階にクライミングウォールを備えた広さ約109平方メートルの遊戯室をは



こまっこ児童館の建物

じめ、乳幼児のためにおもちゃを備え、授乳室を設けたひろばや集会室2室、人気シリーズ漫画などを揃えた図書室、座卓を置いたフリースペースなどがある。2階には楽器演奏やダンスなどができる壁面を鏡張りにした約46平方メートルの防音室、学童保育室となる育成室、中高生室などがある。屋上はウッドテラスのほか、屋上緑化や太陽光発電パネルがある。内装には多摩地

域産の木材を多く使い、温かい雰囲気を出しているのも特色。

同館の建設は以前から寄せられていた市民の要望に応えたもので、施設の内容についても子どもから意見を求め反映させた。

乳幼児から中高生まで幅広い年齢の子どもたちがさまざまな活動を行うための設備が整備され、行政と地域をつなぎ、子育てや子育て支援ネットワークの拠点施設をめざして事業を展開、株式会社こどもの森が指定管理者として運営にあたる。

利用できるのは0歳から18歳までの子どもとその保護者で開館時間は午前9時~午後7時で、休館日は曜日、祝日、年末年始。



クライミングウォールがある遊戯室

問い合わせ ☎ 3480-5701 こまっこ児童館。

3月30日(土)には約50人が参加して開館式典が催された。

松原俊雄市長、同館指定管理者の株式会社こどもの森の久芳敬裕社長、同館の愛称を考えた狛江第一中学校の白川真聖生徒会長など5人がテープカットをして開館を祝った。

遊戯室で開かれた式典では、創立70周年記念事業の一環として愛称を考えた一中



まち

生徒会に感謝状が渡された。また、和泉児童館いずみクラブがアトラクションとして手話ソングを披露した。式典に続いて市民に施設が公開され、親子連れなど約380人が見学に訪れた。

タンゴのコンサート 上和泉地域センターで

アルゼンチンタンゴの生演奏を楽しむ「初夏のコンサート」が6月2日(日)午後2時(開場1時30分)から午後3時40分まで上和泉地域センターで



池田みさ子さん

催される。上和泉地域センター運営協議会が地域の人に生の音楽に触れてもらおうと平成26年から毎年催している。今回は市内在住のピアニスト池田みさ子さん、バンドネオン奏者池田達則さん、ヴァイオリニスト山本江梨子さんに加えダンスユニットMarcy&Magiが「エルチョクロ」「リベルタンゴ」「ラ・クンパルシータ」などタンゴのスタンダードナンバーや踊りを披露する。入場無料。

問い合わせ ☎ 3489-9101 上和泉地域センター。

昭和43年にのれん分けで開店/狛江団地の住民に親しまれ

令和元年 狛江・多摩川花火大会 協賛金品を募集



8月7日(日)に開催される「令和元年 狛江・多摩川花火大会」をみんなで創り上げるイベントにするため、多くの方から協賛金品を受け付けている。

協賛金品は花火大会全体の運営経費にあてるもので、多くの企業・団体・個人を対象に募集する。

協賛金は1口1万円以上で、金額に応じ、招待席の贈呈、花火大会パンフレットや掲示板等への協賛者名の掲載などの特典がある。申し込みは6月28日(日)まで狛江・多摩川花火大会実行委員会事務局(地域活性課)で受け付けている。詳細は狛江市観光協会ホームページ。



まで狛江・多摩川花火大会実行委員会事務局(地域活性課)で受け付けている。詳細は狛江市観光協会ホームページ。